

# 大麦栽培管理情報(第5号)

詳細は平成31年JA冬期懇談会資料  
56～57ページをご参照ください。

平成31年4月〇日  
アルプス農協管内農業技術者協議会

大麦の生育の進みは平年より早くなっており、出穂期は4月〇日頃と見込まれます。

なお生育の進みは、地区や圃場によって差があります。このため、赤かび病の防除は出穂状況を必ず確認し、穂揃期（開花始め）とその7日後に、確実に実施しましょう。

## 1. 赤かび病防除 ～適期を把握して確実に散布！～

必ず生育状況を確認して、防除を行いましょ。

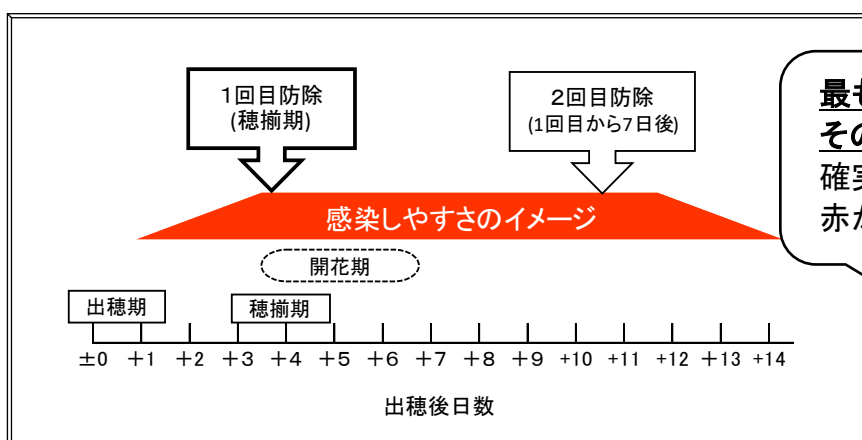
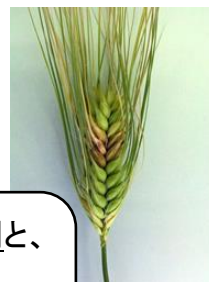


図 防除のイメージ

表 防除体系

防除体系	1回目:穂揃期(開花始め) <b>4月〇日頃</b>	2回目:1回目の7日後 <b>4月〇日頃</b>
粉剤	トップジンM粉剤 DL 4kg/10a (収穫14日前まで) <sup>注</sup>	ワークアップ粉剤 DL 3kg/10a (収穫7日前まで)
液剤	トップジンM水和剤 1,000倍・150ℓ/10a (収穫30日前まで) <sup>注</sup>	ワークアップフロアブル 2,000倍・150ℓ/10a (収穫7日前まで)

注：トップジンM粉剤DL及び同水和剤は、出穂期以降1回しか使えません。

### <散布のポイント>

- ・防除適期に降雨が多い場合であっても、晴れ間を利用して確実に防除をしましょう。
- ・防除効果を高め、かつ住宅地や周辺作物等への農薬飛散を防止するため、風の弱い時間帯に散布しましょう。

## 2. 排水対策の徹底 ～収穫時期まで随時手直し！～

出穂後の登熟条件を良好に保つため、水口や畦畔からの漏水状況を点検するなど、最後まで排水対策を徹底しましょう。